

静岡市南部（市街地）

地形概況

市街地は安倍川下流扇状地に位置するが、周辺の自然堤防・低湿地帯にも拡大し盛土改変が進んだ。平坦面を残す有度山丘陵の開発が進み、南面には海食崖と海岸侵食の激しい砂礫浜をもつ。用宗から大谷へは砂礫堆が発達し、後背湿地もみられた。

地質概況

砂礫層の厚い安倍川扇状地は、砂泥層や泥層の低湿地が広がり、海岸には砂層の砂堆がある。有度山は砂礫層や泥層からなる。市街地周辺の山地は瀬戸川層群・アルカリ火山岩・粗面岩が、また北部は静岡層群の砂岩・泥岩・凝灰質砂岩などからなり、シルト岩も分布する。

気象概況

年平均気温は 16.1℃、年降水量が 2,696mm。典型的な表日本型の気候で、冬季は温暖で穏やかな晴天の日が続く。降雨は県下の沿岸部の中でも多い方であり、特に梅雨から夏季(4月から8月)に全降水量の約 50%の雨が降る。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかったが、静岡市は比較的軽微で震度4の程度であった。
- 1935年7月11日（昭和10年）静岡地震 M=6.4
有度山の周囲、特に有度山塊西縁および西南端付近がひどかった。また、有度山塊の南部で崖崩れが多かった。家屋全壊率が10%を越えた地区は、高松31.8%、西大谷24.3%、東大谷12.4%、池田14.9%、家屋が滑り動いたものが多かった。井戸水の水位の変化が認められ、震央付近で地鳴りが聞こえた。
- 1917年5月18日（大正6年）M=6.3
局地的な強震で、全体で死者2人(防火壁の倒壊による)、負傷6人、地裂、煙突の被害があった。静岡市ではとくに煉瓦塀・煉瓦煙突の被害が多かった。
- 1857年7月14日（安政4年）M=6 1/4
石灯籠数個が倒れ、土蔵の腰巻が痛んだり、梁が落ちた家もあった。また負傷者もあったようである。
- 1854年12月23日（安政1年）安政東海地震 M=8.4
全県下に被害を与えた大地震であり、駿府(静岡市)では江川町より出火し、呉服町6丁目・江川町・新谷町・紺屋町・上下伝馬町・門前町・鋳物師町・台所町・院内町・猿屋町・上下横田町の計13箇所焼失し、焼失戸数約600戸、死者51人を生じた。また道路さけ青泥噴出、堀の水は溢れて道路は沼のようになった。その他、安倍川町では全潰69戸、半潰525戸、死者2人、川合村では戸数77戸で、無きずのものは僅か4戸であった。このように当地は大きな被害を受けたが、このような被害から各地の震度が次のように推定されている。震度：池田・上足洗・千代田・川合・瀬名川7、片山・弥勒・駿府6~7、久能山・中原・丸子6、谷田・沓谷5~6、根古

屋・安居・古宿・大谷・大岩・北安東・中田・下川原・寺田・青木・用宗・石部・牛妻 5、中村・毛越 4~5、南沼上・大和田・小坂 4。これで見ると場所によっては比較的震度の小さい所もあったが全般に震害、地割れからの泥水の噴水など地盤の液状化の現象が目立った。

- 1841年4月22日(天保12年) M=6 1/4
駿府城で石垣 30 間ほど崩れ、久能山東照宮の堂・門など破損、石灯笼 3 個が倒れた。
- 1707年10月28日(宝永4年) 宝永地震 M=8.4
全県下に被害があった大地震で、久能では、御門・鐘楼破損、潰家 156 戸、半潰 33 戸、潰寺 10 軒、駿府で、御伝馬宿大小 135 戸のうち、潰家 22 戸、半潰家 15 戸、丸子宿で百姓家 5 戸潰などの被害があり、久能で地割れから泥水が噴出した。震度は久能・駿府・服織で 5~6、丸子で 5 と推定されている。
- 1498年9月20日(明応7年) 明応地震 M=8.2~8.4
大里村・服織村で大地震ありと記録されている。大里で震度は 6 程度であった。

災害事例 津波

- 1854年12月23日(安政元年) 安政東海地震津波
津波は大谷川の近くまで達し、全潰 1 戸、半潰 1 戸、漁船流失 2 隻、破船 16 隻の被害が出た。津波の高さは根古屋で 5m、下島で 4.5m、用宗で 4.5m である。
- 1498年9月20日(明応7年) 明応地震津波
大里村には瀬海の村で津波が襲ったという記録があり、寺田のさしむ山という所の山の半腹に多くの小石が見られるが、津波で打上げられたものといわれている。津波の高さは 5~6m とされる。

災害事例 高潮

- 1662年8月13日(寛文2年)
大風に依って駿州久能山が崩れ、その上高波打ち上げて流家 10 余戸を生じた。

災害事例 台風

- 1982年9月12日(昭和57年) 台風 18 号
全県下で風水害を受けた。10日~12日の総雨量は静岡で 497mm、梅ヶ島で 485mm であった。当地の被害は負傷者 3 人、全壊 1 戸、半壊 3 戸、床上浸水 1,218 戸、床下浸水 2,530 戸である。
- 1974年7月7日(昭和49年) 台風 8 号(七夕豪雨)
全県下で被害が出た。静岡の 8 日の日雨量は 279mm に達し、被害は静岡中央署管内で死者 16 人、負傷者 16 人、行方不明 2 人、全壊 31 戸、半壊 43 戸、流失 3 戸、床上浸水 7,316、戸床下浸水 13,024 戸、田畑冠水 3,140ha、決壊道路 79 箇所、決壊橋 7 箇所、決壊堤防 14 箇所、山崩 95 箇所、また静岡南署管内では死者 4 人、負傷者 2 人、全壊 2 戸、床上浸水 2,513 戸、床下浸水 1,384 戸に及んだ。

- 1971年8月30日(昭和46年)台風23号
 全県下に風水害があった。静岡中央署管内では死者1人、床上浸水132戸、床下浸水299戸、田畑冠水50ha、道路決壊3箇所、山(崖)崩10箇所、また静岡南署管内では床上浸水279戸、床下浸水976戸、田畑冠水85ha、道路決壊1箇所、山崩2箇所などの被害が出た。
- 1966年9月25日(昭和41年)台風26号
 全県下特に中部で被害が大きかった。静岡で最大瞬間風速は40.0m/s、梅ヶ島で24日日雨量312mmであった。被害は静岡中央署管内で死者22人、負傷者15人、行方不明4人、全壊18戸、半壊185戸、床上浸水36戸、床下浸水269戸、田畑冠水324ha、決壊道路25箇所、また静岡南署管内で負傷者6人、全壊11戸、半壊2戸、床下浸水56戸に及んだ。
- 1954年9月18日(昭和29年)
 全県下特に中・西部で甚大な風水害。麻機川・丸子川が決壊し、新市街地でも浸水家屋が出た。また用宗海岸では高波による半壊家屋を生じた。被害は流失家屋20戸、浸水家屋床上540戸、床下250戸などである。
- 1922年8月25日(大正11年)
 全県下特に中・東部で被害を生じた。日雨量は、大川で280mmに達し、静岡署管内で死者1人、負傷者1人、全壊1戸、半壊8戸、流失2戸、床上浸水343戸、床下浸水4,031戸、被害田畑210ha、決壊道路6417m、橋868m、堤防1,588m、山崩28箇所などの被害が出た。
- 1914年8月29日(大正3年)
 午後から暴風雨、大河内の日雨量は474mmに達し、安倍川堤防が安西5丁目で決壊、市内に浸水した。浸水は安西一帯・番町・寺町・新通・宮ヶ崎・馬場町・呉服町・研屋町・栄町・梅屋町・人宿町に及んだ。被害は死者45人、負傷者90人、流失約1,000戸、浸水10,000戸余、流失埋没田畑180haであった。
- 1897年9月9日(明治30年)
 死者8人、家屋全壊50戸。
- 1884年9月15日(明治17年)
 台風により朝から大雨で、10時~15時には烈風暴雨となり、家屋倒壊120戸、農作物に大被害を生じた。
- 1876年9月17日(明治9年)
 13日からの暴風雨で出水し、安永橋75間、橋台1箇所流失し、彌勤方面一帯は床上まで浸水した。
- 1862年9月29日(文久2年)
 前夜から雷鳴大雨にて安倍川満水となり、6日朝より水当たり強く、夕7時頃から町に水が流れ込み、材木町・片羽町など一円を押し流した。

- 1858年8月3日(安政5年)
大洪水で2か月程も水濁り続け、堤防崩れて荒廃田畑を生じた。
- 1828年8月10日(文政11年)
午前10時頃より風雨はげしく夜に入って安倍川堤防が決壊し、東岸は賤機村・駿府・大里村・安東村・麻機村・千代田村、西岸は長田村にまで氾濫し、府内の東北部高台の安倍町・宮ヶ瀬町・御器屋町でさえ水が溢れた。安倍・藁科川通りの村々で怪我人が約200人もあったという。
- 1704年7月27日(宝永元年)
午前3時洪水のため堤防が3箇所決壊した。安西外新田より安西4・5丁目一帯にかけて床上浸水し流家3戸、潰家9戸の損害を与えた。彌勒方面でも床上浸水して民家3戸を倒壊した。本通5丁目より9丁目および新通大工町より同川越町まで一帯は床下まで浸水した。
- 1693年8月5日(元禄6年)
2日にわたる強雨で安倍川は6日の夜半から満水となり7日午前7時頃堤防数箇所が決潰した。濁流は安西5丁目・4丁目に押入って民家4、5戸を流失、彌勒方面まで押寄せて安倍川渡場の茶屋付近一面に浸水した。家屋田畑の損失は少なくなかったが、人畜の被害はなかった。
- 1656年9月10日(明暦2年)
大風雨。駿府城破損。
- 1655年9月9日(明暦元年)
大風雨にて駿府城内破損。
- 1637年8月26日(寛永14年)
大雨にて駿府城中の塀、民家130戸余吹倒さる。

災害事例 豪雨

- 1987年8月5日(昭和62年)
県中部を中心に被害あり、静岡市内では床上浸水62戸、床下浸水464戸の被害がでた。
- 1964年6月28日(昭和39年)
梅雨前線による豪雨で、静岡の日雨量は215mm(27日)に達した。静岡市の被害は床上浸水264戸、床下浸水3,236戸、冠水田畑64haに達した。
- 1961年6月27日(昭和36年)
久能脇で27日359mmの豪雨が観測された。広野で丸子川が決壊し、下河原で床下浸水20戸を生じた。
- 1918年11月2日(大正7年)
安倍川以西で豪雨。静岡で床下浸水3,400戸を出した。

災害事例 竜巻

- 1956年9月10日(昭和31年)
午前7時24分頃、台風20号による竜巻が安倍川河口に発生。北北東へ進み、幅約30m、移動距離約12kmに及ぶ。被害は中野新田負傷3人、全壊1戸、半壊1戸。中田東負傷7人、全壊4戸、半壊2戸。中田本町負傷7人、全壊4戸。見瀬負傷2人、半壊2戸、八幡本町負傷7人、全壊7戸、半壊9戸。東稲川町負傷5人、全壊4戸、半壊1戸。大和町負傷3人、全壊4戸、半壊1戸。東森下町負傷2人、全壊2戸、半壊5戸。東町全壊1戸、半壊5戸。横田町死者2人、負傷2人、全壊2戸、半壊19戸、春日町全壊3戸、半壊6戸。沓谷負傷4人、半壊1戸、千代田負傷1人、半壊2戸。下足洗新田全壊1戸、半壊4戸。死者2人、負傷者43人、全壊家屋33戸、半壊60戸。
- 1950年12月17日(昭和25)
竜巻は静岡市中島→清水市折戸→吉原市の西部を通り抜けた。静岡市では死者2人、負傷者9人、全壊22戸、半壊10戸、船舶40隻、電柱17本などの被害が出た。

災害事例 旱魃

- 1926(大正15)
県下全般に旱魃で、農作物に大被害を生じた。静岡市豊田の8月の雨量は66mmで平年より301mmも少なかった。